



名古屋修練会副会長
愛知県 近藤歯科医院

近藤 康史
先生

今回のアイテム

オクルーザルインディケータワックス/ 咬合接触確認用ワックス

歯単位の「はまり込み」を見つけてる事が出来る

日常臨床において、咬合診査には咬合紙が多く用いられている。咬合紙による方法は咬合印記法で、咬合させた上下顎の歯および人工歯の咬合接触部に色素が印記される。

この方法は簡便でその用途は多岐にわたる。これに対してオクルーザルインディケータワックスは、ワックスを噛みしめた状態の咬合接触状態を観察する事が出来る。

ワックスの穿孔部や抜け具合を確認する事で、いわゆる歯単位の「はまり込み」を見つける事が出来る。逆に咀嚼困難を訴える症例では、実際に食物を噛み潰す事が出来るかどうかを検査するのに用いる事も出来る。

このワックスは補綴物の材料の滑沢さにも左右されにくく、グリースされたポーセレンに用いても咬合紙のように印記されにくいと

いう事もない。実際の使用においては、ワックスの光沢のある面(おもて面)に接着剤が付与されているので、その面を水で濡らし接着力を発現させる。

この状態で接着面を咬合診査したい歯に圧接し、頬舌側面の余ったワックスは折り曲げて圧接しておく。

検査したい咬合位で嵌合させ、ワックスの穿孔状態を観察する。目的に応じて、付属のマーキングペンシルで咬合接触部を歯に印記する。

このマーキングペンシルは歯に印記しやすく消えにくいという特徴があり、偏心位咬合採得時に上下顎位置関係を印記しておく際にも応用が可能である。



② 接着面を咬合診査したい歯に圧接し、頬舌側面の余ったワックスは折り曲げて圧接しておく。



④ 目的に応じて、付属のマーキングペンシルで咬合接触部を歯に印記する。



① 光沢面を水で濡らし、接着力を発現させる。



③ 検査したい咬合位で嵌合させ、ワックスの穿孔状態を観察する。